令和３年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 22	公益目的事業　19
主査名	大森宣暁　宇都宮大学教授	
研究テーマ	ポストコロナにおける夜の生活活動の質向上のための都市と交通のあり方に関する研究	

24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが重要な視点であるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。申請者らは、これまでの研究プロジェクト等において、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を認識している。また、ここ一年のコロナ禍において、不要不急の外出自粛が求められ、在宅勤務やリモート会議など、オンライン活動が急速に普及した。そして、夜の飲酒活動をはじめとした会食の制限、飲食店の営業時間短縮や、鉄道の終電時刻繰り上げなど、夜間の活動機会と交通システムの時空間制約の変化により、人々の夜の生活活動は大きな変容を強いられている。

一方、人々は、この一年のコロナ禍を経験して、夜の飲酒活動を含めた対面コミュニケーションの価値を改めて認識したという意見もあり、コロナ禍における夜間の生活活動の変化が生活の質にいかなる影響を与え、ポストコロナにおいて生活の質を向上させる都市と交通のあり方を検討することは、重要な研究課題であるものと考える。

以上の背景から本研究は、ポストコロナにおいて、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。特に、コロナ禍における人々の夜の生活活動の実態と意識の変化、ポストコロナにおける人々の夜の生活活動を支える中心市街地と住宅地の役割等に着目して研究を進める。